

## 点検及び評価に係る学識経験者の意見について

福山市教育委員会が実施した「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について、教育に関し学識経験を有する者から、次のとおり意見を聴取した。

### 【学識経験者】

名 前	役職等
渋谷 清	福山市立大学教育学部長兼教育学研究科長
永久 洋子	社会教育委員
藤井 裕久	福山市PTA連合会会長

(五十音順)

### 【意見の要旨】

(点検及び評価全般に係る意見)

- ◇ 全体的に基本目標に向かって、意欲的かつ着実に取組が進められていると感じた。
- ◇ 目標値に達成していない部分のアクションプランが必要だと感じた。

(学校教育に係る主な意見)

- ◇ 「子ども主体の学び」に向けた取組には、教職員の指導力、授業を作る力が問われると思う。「一斉研修が役立っていると感じている教職員の割合」や「教育活動に意義ややりがいを感じている教職員の割合」の指標にやや不十分さを感じる。授業づくりや研さんに励むことができるよう時間を確保し、教職員の自己肯定感を高めてほしい。
- ◇ 2015年度から、福山市立大学教育学研究科へ、教員の研修派遣を行っている。実践的な研究課題に対する教員の熱心な取組は、大学の学生にとっても有意義なものとなっている。研究成果をぜひ福山市の教育現場に広めてほしい。
- ◇ 「全国学力・学習状況調査の平均正答数における全国平均以上の項目数」が、中学校で達成できていない。基礎学力の習得が十分になされることを望む。
- ◇ 小中一貫教育を進めていくため、同じ中学校区の小中学校の教員の意識も連携を考える必要がある。情報の共有や、校区としての取組などを明確にしていく等の具体性が欲しい。
- ◇ コミュニティ・スクールは、先進的に行っている府中市を参考にしながら、福山市モデルを確立できるよう、協力して考えていきたい。
- ◇ 特別支援学級の状況に応じて、支援員を増員できる体制が必要だと思う。また、通常学級に在籍する発達障がいのある児童生徒のため、サポートに入れる取組について、考えていく必要性も感じる。
- ◇ 「補助員等」の現場配置が増員されている。それとともに、授業づくりのための時間の確保が改善されつつあるが、より一層進めていく必要があると思う。
- ◇ 現在のコロナ禍の状況からも、ネットワーク整備が急務であると感じている。セキュリティに十分注意しながら、授業だけでなく、教員研修など、児童生徒と教員が共用できるように整備すれば、主体的な学びに役立てることができると思う。
- ◇ 現代の複雑化する自己の多様性や価値観等に触れられるよう、授業だけでなく講演等を通じて子どもたちに伝えていくことが重要だと思う。

- ◇ 市民や地域住民との交流をより充実させる必要があると思う。
- ◇ 児童生徒が郷土の歴史文化への関心を高められるように、各文化施設の利用、あるいは各校への出前講座の取組を進めてみてはどうか。

(生涯学習・社会教育に係る主な意見)

- ◇ 生涯学習・社会教育活動は、活発に行われているが、年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大による、学習機会に与える影響は大きいと思う。これまでの生涯学習・社会教育に対する市民意欲を低下させることなく、安全確保と両立させながら活動を継続できるようにする必要がある。
- ◇ 公民館の取組が順調な部分とそうでない部分がある。学習のニーズに応じて生涯学習の場は様々あり、活気を呈している。自主的なグループ、サークル、NPO等の活動拠点を公民館も担い、各グループ等に企画・運営を任せるといった取組を検討してはどうか。
- ◇ 親の力を学びあう学習プログラム出前講座は、多様なジャンルが充実していて良い内容だが、案内やPRを増やす必要性を感じた。例えば、放課後児童クラブ事業の利用者に対して、親プロと連携した取組を行ってみてはどうか。
- ◇ 公民館での子ども食堂等における地域との連携について、地域格差が大きいため、好事例等を伝えていくことが重要だと思う。
- ◇ 図書館に、郷土に関する蔵書を収集・整備してほしい。また、新聞の地域版の閲覧が十分できるよう進めてほしい。

(文化財に係る主な意見)

- ◇ 地域のふるさと学習とも関連させ、子どもたちに関心を持たせることが大切だと思う。
- ◇ 文化財講座、講演会等を増加して実施しており、今後の進展に期待できる。
- ◇ 文化財に対する若年層の関心を高めるには、自分にとってそれが大切なもの、誇りに思えるものとして意識が芽生えるような取組が必要だと思う。子どもたちが、できるだけ早い段階で実物に触れる機会を設け、体感的な認識につなげてほしい。